

平成31年の新春となりて

ご挨拶

平成31年 年頭を迎え、若干の県政報告を添えて

自由民主党公認・岡山県議会副議長 **波多 洋治**

岡山県議会総務委員会委員・~~教育再生・子ども応援特別委員会委員~~

★平成31年の年頭に当たり、ご挨拶を申し上げます。先ず以て、ご健勝にて、心機一転の新年を迎えられましたこと、心からお慶びを申し上げます。平素のご無沙汰をお詫び申し上げますと共に、温かいご支援に心からの感謝を申し上げます。小生県議16年目を、岡山県議会副議長として、世のため人のためと思いつつ、東奔西走、元気に活動致しております。他事ながら、ご安心下さい。

★昨年の県政最大の痛恨事は、七月西日本豪雨の災害でありました。岡山県下においても各地各所において、被害をもたらし、66名の方がお亡くなりになり、未だ3名の方が行方不明であります。お亡くなりになった方々とそのご家族の皆様、慎んで哀悼の意を表しますと共に、被災された皆様に、心からのお見舞いを申し上げます。と同時に決して負けることなく、前向きに希望をもって、復旧復興に向けて取り組んで欲しいとの激励を申し上げたいと存じます。

岡山県は、早速に、矢継ぎ早やに臨時予算を計上し、7月・8月・9月・10月と、わずか4ヶ月間で、782億円、更に11月定例議会には225億円を追加上程し、合計1008億5000万円という、災害復旧費を議決したところであります。この上は、1日も早い予算執行が実行され、被災された皆様が、元通りの笑顔に溢れる生き活き

岡山が復活いたしますようご期待を申し上げる次第であります。

ところで、県政の課題は山積しております。豪雨災害からの復旧を1番の課題と挙げるならば、次なる課題は、教育再生問題であります。今を去る6年前、伊原木県政の主要な県政課題として、「教育再生」の旗を掲げたことは、賢明な判断であったと思います。教育県岡山の復活は、県民の願いであり、教育再生への投資こそ、未来の岡山を切り開く希望の道であります。しかしながら、教育現場のかかえる問題は、決して安閑としておれる状況ではありません。平成29年度、学力はいまだ全国の下位を低迷し、小学校では31位、中学校では40位でありました。児童生徒の暴力行為は、1219件を数え、認知されたいじめの件数は、2866件に及び、長欠児・不登校児の児童・生徒数は、実に5695人に及び、中学校・高等学校だけで4059人にも及ぶのであります。また高校の中途退学者は817人に及びました。誠に、残念な悲しい数字であります。この迷える子ども達がやがて日本の将来を支える人材となるのであります。

県教育委員会は、様々な角度から教育施策を展開しておりますが、その施策は浸透せず、上滑りとも空振りとも思えることがしばしばございます。教育再生は、教育委員会と学校によってのみ出来ることではありません。ここは、学校を取巻くあらゆる環境の力を結集し、行政・学校・地域のまさしく三位一体の連携強化の取組みによって実現されていくものであります。と同時にどのようにもつれた糸も、その端から、丁寧に、根気よく一本一本解きほぐしていくことでもあります。

教育は人なり、であり、人は人によって変わる、という

地道な道のりであります。子ども達の真正面に立ち、子ども達の思いや悩みを受け止める立場にある学級担任の責任は重く、教師の使命感や志、厳しくも優しい愛情や情熱こそが、混迷の教育現場を救う鍵であります。とは申せ、誠に残念ながら、教育再生はいまだ道半ばという思いであります。

★次は、産業振興策であります。地方では、ひそかに人口減少が進行する中、新たな雇用の創出をして、地域の活性化を図るために、様々な企業誘致策が進められております。岡山県では、昨年度(平成29年度)の県営産業団地には17社の企業立地が実現しており、市長村営の工業団地6社、そして民有地の企業誘致7社を合わせると、合計30社の誘致に成功しております。

また企業のニーズに対応するためには、受け皿としての企業用地・産業団地が必要であります。県は岡山空港南側に、10ヘクタールにおよぶ新たな企業団地の造成に取り組み、ほぼ完成に近づいた1月末より、誘致の公募を開始することになりました。企業立地の最適地でもあり、大型企業の進出が望まれるところでもあります。

また本県の産業振興策で欠かすことが出来ない重要課題は、本県企業の99.8%を占める中小企業・小規模事業所の支援策であります。いわゆる企業の「稼ぐ力」を強化する支援策であります。販路拡大の支援策の一つとして、本年もまた1月24日～25日に開催される「岡山テクノロジー展」は、今回で4回目、県内のものづくり企業172社がコンベックス岡山に一堂に会するという、中四国最大規模の展示・商談会であり、さらなるビジネスチャンスが生まれるものと期待されます。

また昨年10月には、本県の特産品であるジーンズ販売戦略の一環として、伊原木知事と共にフランスを訪問し、パリのデザイン学校において、ジーンズのデザインコンクールを開催、優勝した生徒を岡山に招待するというイベントを実施してまいりました。今や、国境を越え、民族や宗教を越え、仕事を越えて愛される人類服・地球服ともいえるジーンズが、本県から世界に向けて発信されることを大いに期待しているところであります。

★さて、最後は、人口減少問題に対する対策です。人口減少は今後加速度的に進む、人口減少は地域によって異なる、人口減少は経済社会に大きな負担となる、人口減少によって経済が縮小スパイラルに陥る、等の問題であります。結婚・出産・子育てといったライフステージに応じた多様な施策を、強力に展開できる自由度の高い仕組みを構築する、とか、早い年代から安心して子どもを産み育てることが出来るよう、地域の高齢者や企業等による子育て支援の充実を図ること、育児に専念する普通家庭に対する税制優遇措置、更には、子どもの多い、多子世帯に対して、福祉・教育・住宅などについて、思い切った公的支援を実施すること、など人口増対策が待たれます。

人口減はなぜ起こるのか。言うまでもなく、若者が結婚しないからであります。では、結婚したくないのか、と問えば、「出会いがないから」という答えであります。そこで岡山県結婚支援センターでは、結婚支援をさらに強化するため、ワンランクアップのコンピューターによる「岡山縁結びネット」の運用を開始しました。順調なすべり出しともいえますが、この支援センターを備中地区・美作地区にも設立する必要があるとあり、その施策は着実に進行しており

ます。一方、民間のお節介焼きのおじさん・おばさん達で組織するNPO法人寿仲人会は、すでに65組の結婚を成立させており、結婚成功数に対する助成補助も必要であります。人口減対策は、オール県民の課題であるからであります。

★「ハタと困ったら、波多に頼め。用事があったら洋治に頼め」を16年前の出馬以来のキャッチフレーズにして、県政改革に挑戦してまいりました。常に背中に、市民県民の要望を背負いつつ、その思いや願いを行政に届け、予算と行政サービスをもってお返ししたいと念じながら取り組んでまいりました。決して財政の豊かなときではありませんが、緊急性や重要性を念頭において、皆さんの期待に応えられる政治活動をしたいと念じております。世のため人のため、初心忘れることなく、日々命を輝かせ、忍苦・精進を誓って頑張ります。どうかこれからも、温かいご支援とご協力を賜りますよう心からお願いを申し上げます。

★平成31年は本年4月30日までであります。その後の元号を楽しみにするとともに、新しい御代が、皆様と皆様のご家族にとって、ご健勝で、幸多き年でありますよう、心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶にさせていただきます。

